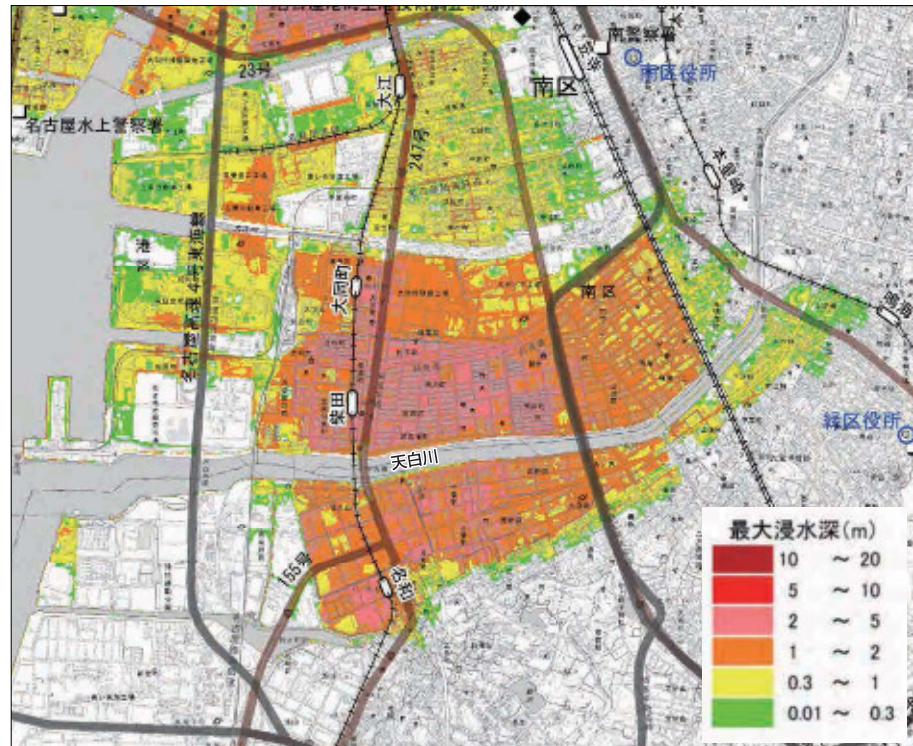


## ❖ 津波浸水想定 ❖



地震により堤防が沈下するなど最悪の条件を想定し※1、科学的に想定しうる最大クラスの地震・津波※2が来襲した際の、浸水の予測結果です。  
お住まいの地域の浸水深等をご確認いただき、避難の参考としてください。

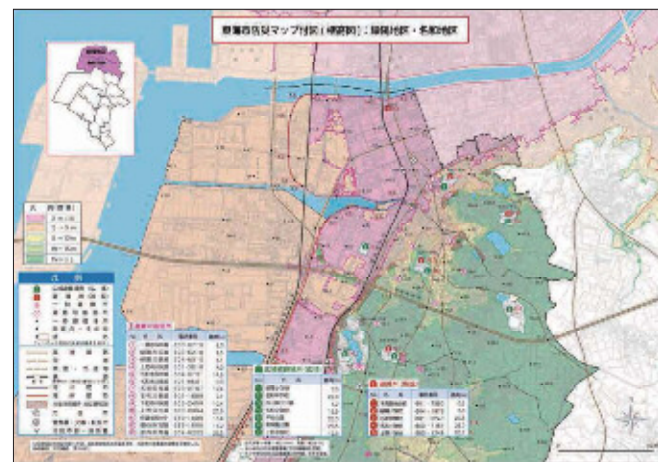
愛知県河川課のホームページで公表しています  
(H26.11.26公表)

URL <http://www.pref.aichi.jp/kasen/>

※1 計算において、堤防は、その高さが75%沈下し、越水した時点で破堤すると想定しています。その他、計算条件等については、ホームページに掲載しています。  
※2 科学的に想定しうる最大クラスの地震・津波発生確率が1000年に1度を超えるような、発生頻度は低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす地震・津波。東日本の地震・津波はこれに相当します。

## ❖ 津波ハザードマップ ❖

「ハザードマップ」が名古屋市や東海市から配布されています。ご確認ください、日頃からの地震と津波の備えにお役立てください。



### 記載内容

- 津波避難ビル等を表示したマップ
- 日頃からの津波への備え
- 津波避難行動
- 用意しておきたい非常持出品の一覧 など

※詳しくは、名古屋市と東海市のホームページでご確認ください。

↓ URLはこちらです ↓

(名古屋市) <http://www.city.nagoya.jp/bosaikikikanri/page/0000057004.html>  
(東海市) <http://www.city.tokai.aichi.jp/1020.htm>

■ 身の回りでご確認ください！

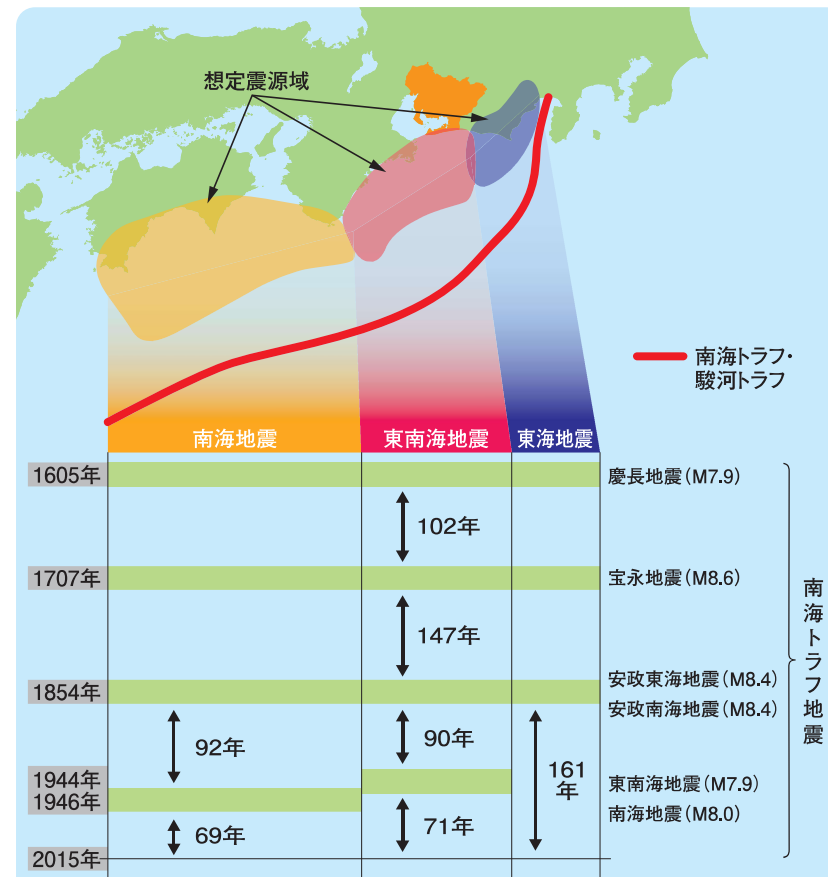
「海拔表示」 ↓



「津波避難ビル」 ↓



## 南海トラフで、今後30年間に大地震が発生する確率は約70%



いわゆる東海地震、東南海地震等にあたる「南海トラフ地震」は、これまでおおよそ100~150年前後の周期で発生しています。

最後に発生した昭和東南海地震、昭和南海地震からすでに約70年が経過しており、東海地震については、160年以上が経過しています。

南海トラフ地震の発生の切迫性は非常に高まっており、近い将来、必ず発生する地震であると考えられています。



平成26年12月に策定した  
**第3次あいち  
地震対策アクションプラン**  
に基づき、  
**天白川の地震・津波対策**を行います。

総務省 消防庁 平成26年 消防白書、地震調査研究推進本部(2001)および中央防災会議(2001)を基に作成



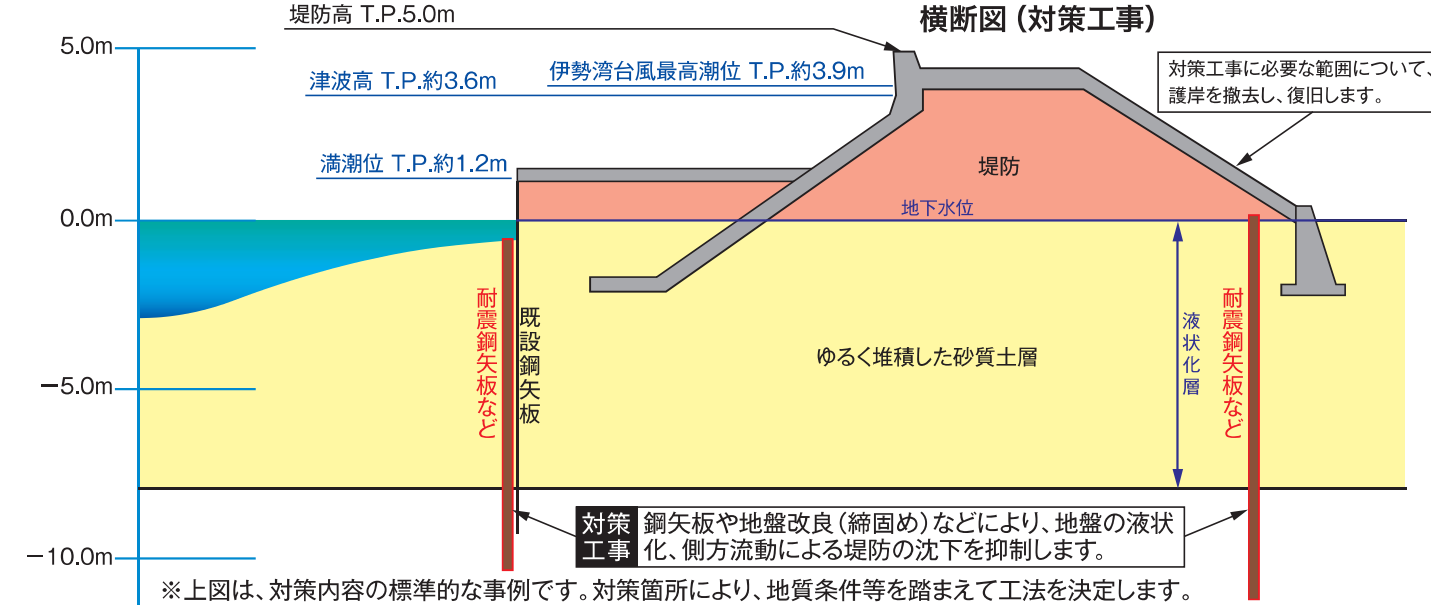
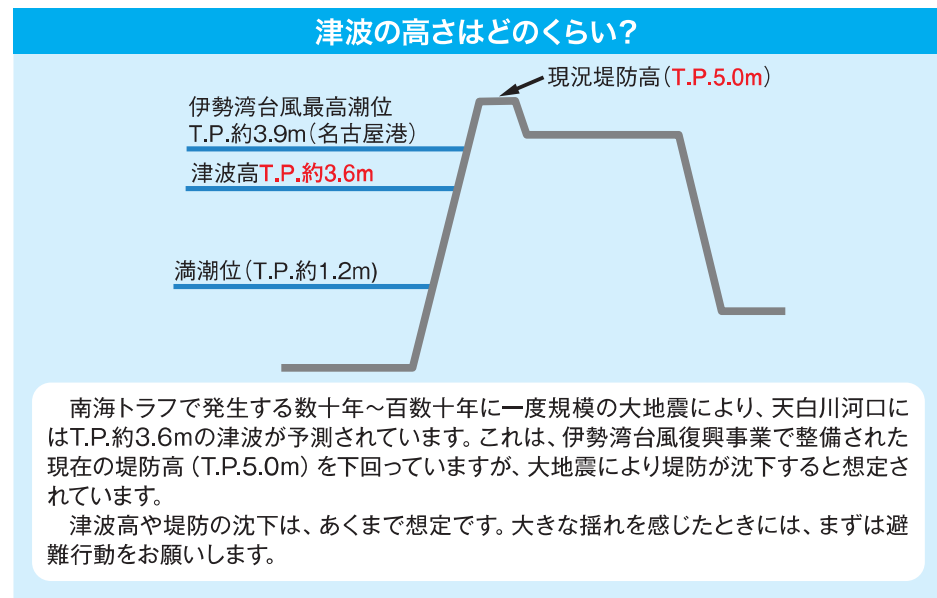
# 地震・津波対策の内容

**平面図** 地震・津波対策の対象区間において、必要な対策工事を順次進めます。  
 ※今後の詳細な調査検討により、対象区間等が変更となる場合があります。

兵庫県南部地震を契機に対策を実施（H8～H11）してきましたが、  
 東日本大震災を教訓とし、最新の知見に基づき対策を行います。



※扇川・大高川の管理者である名古屋市と連携して、対策工事を進めていきます。



## 対策工事の効果は？

平成23年に発生した東日本大震災の際、対策工事の効果を確認されています。

